

ソニー生命カップ 第47回全国レディーステニス大会 全国決勝大会

【No.1 中尾 和美】

県代表として第38・45・47回大会に、10年をかけて3度出場しました。その間、左膝の怪我や年齢の壁にぶつかりながらも、家族や仲間に支えられてテニスを続けることができました。有明ではチームメイトや監督と共に。各地・各国から熱い声援を送ってくださった方々、YouTubeで観戦し応援してくれた仲間。みんなで一緒に戦った最高の「チーム長崎」。チーム長崎で残せた最高の戦績でした。

【No.1 三城 光代】

初めて全国レディースに出場する事ができました。

全国の気迫に負けないようプレーする事に精一杯でした。その中で自分達のダブルスができる喜びと、できない自分の未熟さを痛感しました。

今後は、ゲーム展開やポイントの取り方、それに必要な知識や技術を意識しながら練習に励みたいと思います。また、団体戦ならではのチームの応援がプレーに繋がり、とても心強くパワーが湧きました。支えてくださった皆さん、本当にありがとうございました。

【No.2 内山 久実】

今年で3回目の参加でした。たくさん応援していただき、色々な経験をさせていただきました。ありがとうございました。

毎回何かしらの収穫があったのは間違いないと思いますが、心技体の強化と、調子の良し悪しの振りを小さくすることが変わらずの目標です。

【No.2 渡邊 信子】

今回で6回目の全レでした。最後と思って臨んだ今回はドローも良く目標にしていたベスト16まで残れて嬉しかったです。ベスト8も目前だったのですが、あとひと頑張りができなかったのが悔やまれます。それでも今できる事はできたと思います。

応援してくださったたくさんの方々、送り出してくれた家族に心から感謝しています。

【No.3 高村 直子】

17年ぶりの全国レディース。有明の森の神聖さに胸が熱くなりました。5県合同戦で緊張しきったおかげで、本番は集中してプレーできました。遠方から駆けつけてくれた家族・友人・上司、一緒に闘ったパートナーやチームメイト、監督、支部長、エールを送ってくれた長崎の皆様、心から感謝。チーム長崎、最高でした！

【No.3 道下 薫】

あまり硬くならず、今、自分のやれることを出しきろう、そしてNo.2、No.1に繋げる！という気持ちで思い切ってプレーすることができた。今後は、試合の中で感じた自分の苦手とするショット等を練習し相手にプレッシャーをかけ、試合を優位に運べるよう、自己研鑽に励もうと改めて思った。また、監督から頂いたアドバイスも今後のプレーに取り入れて実践したいと考えます。